

【特集】

新型コロナウイルス感染症による養護教諭教育への影響についての検討
—コロナ感染拡大前後の養護実習を概観して—

今野 洋子
北翔大学

I. はじめに

2020年1月以降の新型コロナウイルス感染症拡大により、養護教諭養成大学においては、2020年度は従来の授業や実習の実施が大変困難な状況となった。全国の養護教諭養成大学では、遠隔による授業の実施や実習時間の短縮および代替措置等、教育の質の保証のために多くの工夫を凝らした。

新型コロナウイルス感染症はなかなか収束せず、2020年度から現在に至っており、現在もパンデミックの中にある。

そこで、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度を対照として、感染拡大以降の2020年度～2022年度までの養護実習の概要を比較し、新型コロナウイルス感染症が養護教諭養成教育に与えた影響について検討することを目的とした。

II. 方法

本学の2019年度養護実習報告集・2020年度養護実習報告集・2021年度養護実習報告集・2022年度養護実習報告集の4部の資料から、該当年度の養護実習までの経過・養護実習の概要・報告書集計結果を分析対象とした。

なお、2022年度養護実習報告集はそれまでの報告集と形式が異なることから該当年度の養護実習までの経過・養護実習の概要に関しては、養護実習オリエンテーションの資料1部を分析対象とした。また、報告書集計結果は、養護実習終了後に教職センターに提出するものであるが、集計結果は養護実習報告集に掲載していることから、養護実習報告集を対象としたものである。

III. 結果

1. 養護実習実施状況の比較

新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度は、養護実習の期間は2019年4月8日（月）～4月26日（金）までの3週間15日間であった。33名の実習生が札幌市内19校に配置され、全員が同じ期間で実習を終えることができた。

なお、実習前に目を向けると、保健教育に特化した養護実習オリエンテーションⅠは2019年1月23日～2月5日までに授業15回分が実施され、健康診断・救急処置に特化した養護実習オリエンテーションⅡは2019年3月6日～3月14日までに23回分が実施され、最終日の3月14日に激励会が行われた。その後3月15日から実習前までに、養護実習事前訪問が行われた。また、2月27日には、実習受け入れ校担当者と大学側との養護実習事前打ち合わせ会が開催された。

実習後については、2019年5月26日に養護実習報告会を実施した。オープンキャンパス日での開催とし、在学生だけでなく来校した高校生も出席しての養護実習報告会であった。

新型コロナウイルス感染によるパンデミックとなった2020年度は、養護実習は大きく変化した。保健教育に特化した養護実習オリエンテーションⅠは2020年1月29日2月7日までに15回分実

施された。しかし、北海道知事からの緊急事態宣言発出により、2020年2月28日から3月19日までの外出自粛、北海道教育委員会による3月4日までの臨時休業措置、本学における2月26日～3月10日までの学内外の活動中止または延期の決定等により、養護実習オリエンテーションⅡについては延期することとなった。また、2月末に予定されていた実習受け入れ校担当者と大学側との養護実習事前打ち合わせ会は中止された。

約半年が経過した7月18日～8月21日にかけて、テキスト授業での養護実習オリエンテーションⅡを実施したが、8月22日のみ、感染防止に留意しながら、対面での養護実習オリエンテーションⅡを実施し、23回分の授業を確保した。養護実習校への事前訪問に関しては、8月17日から開始された。

実習生30名、17校での養護実習であったが、実習受け入れ校の事情に伴って、養護実習期間は異なり、①2020年8月24日(月)～9月11日(金)、②2020年8月26日(水)～9月15日(火)、③2020年8月31日(月)～9月18日(金)、④2020年8月31日(月)～9月24日(木)(ただし、学校事情により2日間を除く)の4パターンとなり、例年とは異なる時期での実施となった上、実習校によって開始時期および終了時期ともに異なることとなった。さらに、濃厚接触者となる等の新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年9月15日(火)～10月19日(火)の中での3週間(15日間)の実施と、変則的な実施となる者もいた。

2021年度の養護実習は、日程的には新型コロナウイルス感染症拡大前の養護実習に準じた形で行われた。32名の実習生が札幌市内18校に配置され、養護実習の期間は2021年4月13日(火)～5月7日(金)までの3週間15日間となった。しかし、やはり、新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年4月13日(火)～5月24日(金)のうちの3週間15日間と変更された実習校もあった。

2021年度の実習前に目を向けると、保健教育に特化した養護実習オリエンテーションⅠは2021年1月28日～2月8日までに15回分が遠隔と対面とを併用して実施された。健康診断・救急処置に特化した養護実習オリエンテーションⅡは2021年3月3日～3月12日までに23回分が遠隔と対面とを併用して実施され、最終日の3月12日に対面での激励会が行われた。その後3月15日から実習前までに、養護実習事前訪問が行われた。また、2021年度も実習受け入れ校担当者と大学側との養護実習事前打ち合わせ会は行われなかった。

実習後の養護実習報告会は、2021年7月17日にzoom等を使用した遠隔で実施された。

続いて、2022年度の養護実習は、32名の実習生が18校に配置され、新型コロナウイルス感染症拡大前の養護実習に準じた形で行われた。養護実習期間は2022年4月8日(金)～4月28日(木)までの3週間15日間として実施された。しかし、実習生が濃厚接触者となったり、実習校で学級閉鎖となったり、2022年度も新型コロナウイルス感染症の影響で日程の変更を余儀なくされ、実習開始を遅らせ4月13日(金)～5月9日(木)となったり、実習終了を遅らせ4月8日(金)～5月20日(金)のうちの3週間15日間となったりした。

2022年度の実習前に目を向けると、保健教育に特化した養護実習オリエンテーションⅠは2022年1月27日～2月3日までに遠隔で15回分が実施され、健康診断・救急処置に特化した養護実習オリエンテーションⅡは2022年3月1日～3月10日までの間に19回分が遠隔で実施され、激励会のみ対面で実施した。実習2週間前の3月23日に健康診断および救急処置の技術演習に特化した対面での授業4回分が行われた。3月24日から実習前までに、学生が実習校を訪問する養護実習事前訪問が行われた。また、2022年度も実習受け入れ校担当者と大学側との養護実習事前打ち合

わせ会は行われなかった。

養護実習報告会は、2022年7月2日に対面で実施された。

新型コロナウイルス感染症拡大により、養護実習期間・実習時期および授業方法に大きな影響があったことが捉えられた。これらの概要をまとめたものが、表1である（表1参照）。

表1 養護実習日程等の比較

年度	学生数	配置校	オリエⅠ（15回分）	オリエⅡ（23回分）	養護実習（15日間）	報告会
2019	33	19	1月23日～2月5日	3月6日～3月14日	4月8日～4月26日	5月26日
2020	30	17	1月29日～2月7日	7月18日～8月22日 (22日のみ対面)	①8月24日～9月11日 ②8月26日～9月15日 ③8月31日～9月18日 ④8月31日～9月24日	11月28日 (遠隔で実施)
2021	32	18	1月28日～2月8日	3月3日～3月12日	①4月13日～5月7日 ②8月13日～5月24日	7月17日 (遠隔で実施)
2022	32	18	1月23日～2月3日	3月1日～10日・23日 (23日のみ対面)	①4月8日～4月28日 ②4月13日～5月9日 ③4月8日～5月20日	7月2日 (対面で実施)

2. 実習報告書における学生の学びの比較

養護実習後の学びを探るべく、養護実習報告書における「大変有意義だった」「大変理解できた」「十分だった」等のよかった点に着目して整理すると以下のようになった。

養護実習の成果が「大変有意義だった」者は、2019年度は100%だったが、コロナ禍の2020年度は96.6%とわずかに下がり、2021年度および2022年度は100%に戻った。

実習校の指導に関しては、2019年度・2020年度・2022年度ともに「よかった」が100%を占めたが、2021年度のみ96.7%であった。

児童との交流についてみると「十分だった」者は、2019年度は94.0%、新型コロナウイルス感染症拡大によって時期も大幅に変更して行われた2020年度は93.1%とほぼ変わらなかった。2021年度・2022年度は100%であった。

教職員の理解について「大変理解できた」者は、2019年度が81.8%だったのに比べ、コロナ禍の2020年度は69.0%と減少した。依然として新型コロナウイルス感染症拡大の続く2021年度も76.7%と低かったが、2022年度は96.9%と上昇した。

養護教諭になりたいという「教職の志望」に関しては、「とてもそう思う」者は、2019年度は100%であったが、コロナ禍の2020年度は82.8%と低く、2021年度は90.0%、2022年度は93.8%と9割を超えた。

事前学習・準備はいずれの年度も他の項目に比較して低かった。コロナ禍以前の2019年度をみると、「十分」な者は51.5%と約5割であった。新型コロナウイルス感染症拡大によって、実習前の学習がそれまでとは異なりテキスト授業で対応された2020年度は24.1%と3割弱に転じた。遠隔と対面が併用された2021年度も33.3%と低く、約3割であった。しかし、2022年度は65.6%と6割を超えて高かった。2022年度は、2021年度よりも遠隔授業が多く、授業4回分を除いて遠隔での実施であったにも関わらず、事前学習・準備は「十分」な者がコロナ禍前の2019年度よりも多く7割近いことは特筆すべきである。

これらをまとめたものが、図1である。

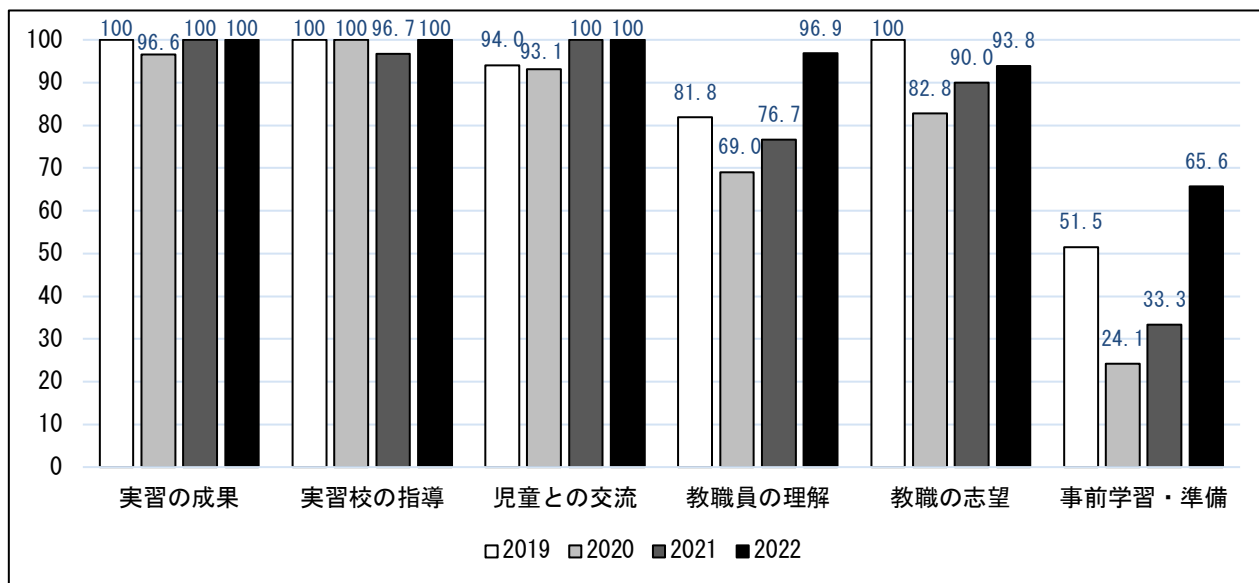


図1 学生の学びの比較

さらに、それぞれの項目については3件法による問いであったことから、全項目について年度ごとにまとめ、残渣分析を行った。その結果、事前学習・準備において、2021年度の「よかった」者および2022年度の「十分」だった者が有意に高く、2021年度の「十分」だった者および2022年度の「よかった」者が有意に低い結果となった。

これらのことから、新型コロナウイルス感染症拡大によって、「実習の成果」「実習校の指導」「児童との交流」「教職員の理解」「教職の志望」に対する影響はみられなかったといえる。また、「事前学習・準備」における違いは2021年度・2022年度で異なる傾向が見られ、特に2022年度は2019年度よりも「十分」だった者が有意に高くなっており、2020年度以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものとはいえないことが把握できた（表2参照）。

表2 学生の学びの比較

* p<0.05

年度	2019	2020	2021	2022	
学生数 (N)	33	29	30	32	
実習の成果					
大変有意義	33	28	30	32	
有意義だった	0	1	0	0	n.s.
有意義ではなかった	0	0	0	0	
実習校の指導					
大変よかった	33	29	29	32	
よかった	0	0	1	0	n.s.
あまりよくなかった	0	0	0	0	
児童との交流					
十分	31	27	29	32	
よかった	1	2	1	0	n.s.
不足	1	0	0	0	
事前学習・準備					
十分	17	7	▽10	▲21	
よかった	16	19	▲20	▽10	*
不足	0	3	0	1	
教職員の理解					
大変理解できた	27	20	23	31	
理解できた	6	9	7	1	n.s.
十分でない	0	0	0	0	
教職の志望					
大変高まった	33	24	27	30	
高まった	0	5	3	2	n.s.
変更する	0	0	0	0	

IV. 考察

2019年度を対照とし、新型コロナウイルス感染症拡大以降の2020年度から2022年度にかけて、養護実習の日程・期間等の概要および実習後の学生の学びを概観して整理した。このように新型コロナウイルス感染症拡大前後の養護実習の変化をみると、日程や期間等の実施状況の変化は見られたが、養護実習における学生の学びに関しては、ほぼ変化はないものと考えられた。このことは、第一に、養護実習受け入れ校の養護実習への理解が深く、コロナ禍においても養護実習の学習目標を達成できるような環境整備をしたことや養護実習指導者の多様な取り組みによるものと推察された。

つまり、どのような状況であっても、養護教諭に求められる資質能力について、実習校で十分に把握しており、養護教諭養成教育への協力体制がとられていることが考えられた。

特に2020年度は養護実習期間の短縮や代替プログラムでの実施等が全国的に検討されていたが、本学の養護実習では3週間（15日間）の実習期間および従来通りの健康診断・保健教育・保健室実習という養護実習の内容を確保されたことで、学生の学びはコロナ禍以前と変わらず、充実したものになったことがうかがえた。

しかし、コロナ禍前後に関わらず、養護実習の事前学習・準備に関して課題が残されていることから、養護実習がより学び多きものとなるよう、学生の自覚を促し、実習前から主体的に対応できるようなオリエンテーションの内容・方法に工夫が必要であることが示された。

V. まとめ

養護実習校における養護教諭養成教育の理解が深く、新型コロナウイルス感染症が養護教諭養成教育に与えた環境要因はあるが、学生の学習内容には影響はほぼ無いことが把握され、本研究の所期の目的を果たすことができた。

今後は、学生の学びの内容および実習校の評価内容を記述等から詳細に分析し、さらに研究を深めたい。